

2023年度 TUMUG支援事業のご案内

2023年度「TUMUG支援事業(男女共同参画・女性研究者支援事業)」を下記の通り実施します。公募要領をご確認のうえ、ぜひご応募ください。

研究支援要員

- 両立支援
- 女性リーダー育成

研究支援要員雇用のために必要な人件費の補助

対象者

- 出産・育児・介護等を行う教員・技術職員(男女)
- 国の審議会委員等(性別問わず)の要職に就く女性教員・技術職員

ネクストステップ研究費

- 女性リーダー育成

新規の研究課題の遂行や、研究成果の公開に必要な研究費の支援

対象者

女性教員(准教授、講師、助教、助手)

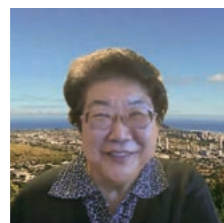
注意事項

※プログラムによって対象と締切が異なります。
 ※研究支援要員、東北大学サイエンス・アンバサダーは、各部署担当係を通じての申請となります。
各部署における締切にご注意ください。その他のプログラムは、希望者が直接申請することになります。
 詳細は、追って公開される要項をご確認ください。

開催報告

第1回スキルアップセミナー 「英語科学論文の書き方と英語プレゼンテーションのコツ」

今回は長年英語論文の校閲に携わり著書も数多く出版されている野口ジュディー津多江氏をお迎えし、英語科学論文を執筆する際のポイント、英語による科学発表時の準備方法などを解説していただきました。文法や発音についてご講演いただき、その後、参加者からの質疑応答がありました。50名(関係者含む)の方々にご参加いただきました。



日時:11月18日(金)13:30~15:45
 開催方法:オンライン

第2回スキルアップセミナー 「学会発表や講義に役立つオンライン技術セミナー」

今回は大隅典子男女共同参画委員会委員長(副学長/広報・ダイバーシティ担当)が、オンラインの特徴を意識した資料作成やプレゼンのコツ等を解説しました。オンラインでの学会発表や講義で役立つ内容を講演しました。55名(関係者含む)の方々にご参加いただきました。



日時:2月10日(金)14:30~16:00
 開催方法:オンライン

新規登録随時受付中

TUMUGメーリングリスト(学内限定)に登録しませんか?

役立つ情報が満載の男女共同参画推進センター(TUMUG)のメーリングリスト(学内限定)に登録しませんか? 当センターでは、支援制度やイベント最新情報等をメーリングリストでいち早くお届けしています。新規登録も随時受付中です。ぜひご登録ください!

対象 ▶ 本学に所属する教職員、大学院生、学部学生(性別不問)
 登録方法 ▶ 右記QRコードよりご登録ください。



Information

男女共同参画コラム

IUPAC世界女性朝食会が生み出すネットワーク

北川 尚美

工学研究科 教授



写真右:北川教授

IUPAC(International Union of Pure and Applied Chemistry)は、毎年2月11日前後に国連「科学における女性と女児の国際デー」に合わせてGlobal Women's Breakfast(GWB)を実施している。目的は、科学における男女平等の障壁を克服するため、あらゆる性別の人々の活発なネットワークを確立することである。昨年のGWB2022では、高校や大学、企業、政府、学術団体などの様々なグループが75カ国で400のイベントを開催し、3万人以上が参加したという。今年のGWB2023のテーマは「Breaking Barriers in Science」、日本では私がオーガナイザーとなり、日本化学会と化学工学会の共催で北海道、東北、関東、近畿、中部、九州の6つのサイトを立ち上げ、各々が好きなサイトに参加する形でオンラインミーティングを実施した。この形式は3年目である。男性も大歓迎でphDの男子学生や研究室運営の参考という男性教員の参加もあった。12時から各サイトで情報交換、13時から共通サイトに移動し、話題を共有する。国際会議で知り合った米国大学の日本人女性も昨年参加、日本の後に自身の大学でGWBミーティングを主催するという。企画、運営は大変だが、いざ当日となれば初対面の人も楽しく交流、互いに元気をもらい「よし、私も頑張ろう!」とエネルギーが湧いてくる。みな同じで、頑張る仲間を知ることが、大きな力になるようだ。

私は、日本の後にマレーシアのGWBミーティングに招待され、参加した。偶然その翌日からマレーシアに出張で、早速ミーティングで知り合った女性教員2人が会いに来てくれた。一人は女性初の副学長だそうで、とてもエネルギッシュな方、もう一人は准教授で日本の大学でphDを取得したとのことだった。彼女たちの大学の化学工学科は学部生1000人のうち80%が女子学生とのこと。しかも、二人とも4人の子供がいるという、驚きの連続だった。さらに偶然一人はサバティカルで3月に東北大に来るとのこと、いろいろな秘訣を聞いてみようと思う。

東北大学サイエンス・アンバサダー

—女性研究者支援モデル育成—



SAの最新情報はコチラから!



東北大学サイエンス・アンバサダー(SA)は、今年度はオンラインとオンラインで活動しました。高校生を対象としたオンライン出張講義では、研究生活の様子や本学の研究環境について伝えました。小学生を対象とした「わくわくキッズ2・ドキドキ夏休み実験」では対面で実験を行いました。「TUMUG女子大生エンパワーメントミーティング」では、猿橋賞受賞者である田中幹子教授(東京工業大学・本学卒業生)に、これまでの経験を伺いました。noteでは、研究・大学院生活・進路選択の経験など、SA自身が発信しています。特別番組「東京エレクトロン宮城presents小島よしおのまちぶらサイエンス」では、塩釜を舞台に理科実験を行いました。当番組は、3月21日13:55より東北放送にて放送予定です。

各記事の詳細および当センターの活動予定は、TUMUG WebやSNSをご覧ください。



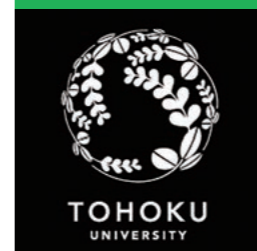
東北大学男女共同参画推進センター

Tohoku University Center for Gender Equality Promotion

TEL. 022-217-6092
 所在地 〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
 Mail office@tumug.tohoku.ac.jp
 WEB http://tumug.tohoku.ac.jp/



東北大学男女共同参画推進センター[TUMUG]ニュースレター Vol.22 [発行日] 2023年3月



TUMUG

Mar. 2023 Vol.22

「TUMUG」とは、「Tohoku University(東北大学)」「Movement(運動、活動)」「United(団結、協力)」「Gender(ジェンダー、男女)」からなる頭字語(アクロニム)。東北大学が「新」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして拡がっていくことを目指しています。



第4回輝く女性研究者活躍推進賞(ジュンアシダ賞)を受賞

表彰式は日本科学未来館にて開催され、大隅典子副学長(広報・ダイバーシティ担当)が本学を代表して出席しました。

表彰式の様子はJSTのWebサイトよりご覧いただけます。
<https://www.jst.go.jp/diversity/activity/report/report36.html>

Headline News

東北大学が第4回輝く女性研究者活躍推進賞(ジュンアシダ賞)を受賞しました。

サイエンス・エンジェル制度(現サイエンス・アンバサダー制度)や大学全体の取り組みに高い評価。

東北大学は、科学技術振興機構(JST) 第4回輝く女性研究者活躍推進賞(ジュンアシダ賞)を受賞しました。

この度の受賞は、「サイエンス・エンジェル制度」(現サイエンス・アンバサダー制度)による女子中高生の理系進学促進のほか、全学としても女性教職員の積極採用や上位職登用、女性研究者の育成支援、無意識のバイアス払拭の啓発など、早い段階からの継続した取り組みにより、女性教員比率や博士課程の女性比率の向上などの成果を上げている点や、女性研究者の活躍推進に向けた国内外の大学との連携、各種データを公開・発信するなど、総じて他機関のモデルになり得る点が高く評価されました。表彰式は、11月6日(日)に日本科学未来館にて開催され、大隅典子副学長(広報・ダイバーシティ)が受賞者スピーチを行いました。



①賞状と賞牌を持つ大野総長と大隅副学長
 ②③表彰式の様子

2022年度後期 イベント開催報告

2022年度 TUMUG オンラインランチミーティング

日時：第24回/10月11日(火)、第25回/12月13日(火)、第26回/2月14日(火) 各回12:00~13:00
開催方法：オンライン 対象：本学研究者、教職員

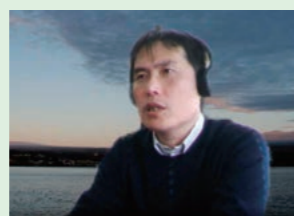
TUMUG オンラインランチミーティングは、東北大学の女性研究者のネットワークの形成及び実質的な学際融合研究等への発展を目指し、定期的に開催しています。これまでに26回開催され、毎回40名前後の方にご参加いただいています。

■プログラム

第24回：戸田 雅子(農学研究所 教授) 田邊 重澄(加齢医学研究所・災害科学国際研究所 助教)

第25回：秋山正幸副センター長(理学研究科 教授)

第26回：荒木 由布子(情報科学研究科 教授) 有村 奈利子(薬学研究科 准教授) 石川 真衣(法学研究科 准教授) 細田 千尋(情報科学研究科 准教授) 間芝 志保(文学研究科 准教授) 佐藤 誠子(教育学研究科 准教授)



TUMUG女子大生エンパワメントミーティング 第41回猿橋賞受賞者、田中幹子教授との対話

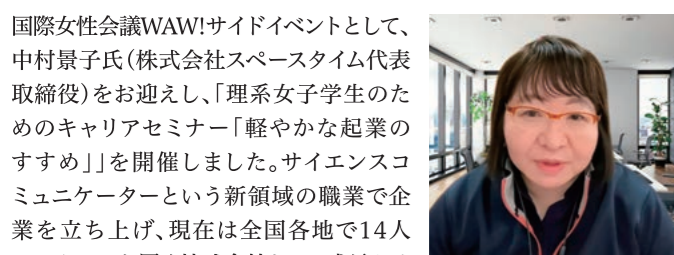
日時：9月15日(木) 16:30-17:30
開催方法：ハイブリッド開催(青葉山キャンパス生物棟 生物地学共通講義室・オンライン) 対象：本学の学部生・大学院生、教職員

自然科学分野で顕著な業績を収めた女性科学者に贈られる猿橋賞を昨年受賞された田中幹子教授(東京工業大学生命理工学院 教授・本学理学研究科 生物学専攻 前期・後期博士課程 出身)に、女性として研究者として歩んで来られたこれまでの経験を伺う機会として、「TUMUG女子大生エンパワメントミーティング」第41回猿橋賞受賞者、田中幹子教授との対話を開催しました。はじめに、田中教授からご自身の研究についてお話をいただきました。その後、東北大学サイエンス・アンバサダー(SA)と、本学で学位を取得した経歴もある田中教授との対話が行われました。SAが、田中教授が理系進学を決めたきっかけや、SA自身が研究に取り組む中で悩んでいる事などを質問をし、田中教授が回答しました。イベント終了後には、SAや、猿橋賞受賞者である梅津理恵教授(金属材料研究所)との交流の時間ももたれました。当日は、オンライン・オフライン合わせて47名(関係者含む)の皆様にご参加いただきました。



国際女性会議WAW!サイドイベント 理系女子学生のためのキャリアセミナー「軽やかな起業のすすめ」

日時：1月25日(水) 12:00-13:00 開催方法：オンライン
対象：東北大学SA他、在学生及び全国ダイバーシティネットワーク東北ブロック連携大学の在学生、その他

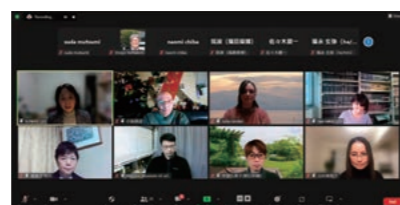


国際女性会議WAW!サイドイベントとして、中村景子氏(株式会社スペースタイム代表取締役)をお迎えし、「理系女子学生のためのキャリアセミナー「軽やかな起業のすすめ」」を開催しました。サイエンスコミュニケーターという新領域の職業で企業を立ち上げ、現在は全国各地で14人のスタッフを置く株式会社として成長させた中村氏の起業の経験談を聞くことで、身近にある出来事が起業に繋がることが学べ、参加者からは「起業」に対する心理的ハードルが下がったという感想が多くありました。また、女性のライフスタイルに合った働き方ができる場所を作るという視点の話は、女性参加者からの支持が多く、今後の参考にしたいという声もありました。当日は、19名(関係者含む)の皆様にご参加いただきました。

国際女性会議WAW!サイドイベント フォーラム「ジェンダー多様性から災害を伝える」

日時：2月4日(土) 14:00~ 開催方法：オンライン
主催：東北大学 災害伝承とジェンダー 多様性研究チーム(坂口奈央・李善姬・ケルスタユリア)
共催：東北大学 災害科学世界トップレベル研究拠点プロジェクト・男女共同参画推進センター・災害科学国際研究所

国際女性会議WAW!サイドイベントとして、本学の災害科学世界トップレベル研究拠点プロジェクト・男女共同参画推進センター・災害科学国際研究所が共催して「ジェンダー多様性から災害を伝える」のフォーラムを2023年2月4日にオンラインで開催しました。東日本大震災から12年が過ぎ、震災の記憶も主にマジョリティの視点から伝承されている中、多様な人々の災害の体験をどう伝えるのかをテーマに、パネリストの間で報告と議論がなされました。当日は、学内外で29名の参加がありました。



女性研究者・TUMUG支援事業利用者の業績(※印は支援事業利用者)

【受賞】

■令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門) 北川 尚美 教授(工学研究科)*



北川 尚美 教授 田中 幹子 教授 無盡 真弓 助教

■第41回猿橋賞を受賞 田中 幹子 教授 (現・東京工業大学生命理工学院 教授、本学理学研究科生物学専攻出身)

■日本火山学会研究奨励賞を受賞 無盡 真弓 助教(理学研究科)*



簡 梅芳 助教 桑村 裕美子 教授 南後 恵理子 教授

■2021年度 日本微生物学連盟「野本賞」 簡 梅芳 助教(環境科学研究科)*

■第18回(令和3年度)日本学術振興会賞、第18回(令和3年度)日本学士院学術奨励賞 桑村 裕美子 教授(法学研究科) 南後 恵理子 教授(多元物質科学研究所)

■令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰(理解増進部門) 大隅 典子 教授(男女共同参画委員会委員長/副学長)* 田中 真美 教授(男女共同参画推進センター長)*



大隅 典子 教授 田中 真美 教授 関口 仁子 教授

■第42回猿橋賞 関口 仁子 教授(東京工業大学教授、東北大学委嘱教授)*

■「資生堂 女性研究者サイエンス Grant」第15回 小川 亜希子 助教(加齢医学研究所)* 簡 梅芳 助教(環境科学研究科)* 常松 友美 助教(生命科学研究所)*



小川 亜希子 助教 常松 友美 助教 佐々木 晴香さん (提供：日本ロレアル株式会社)

■第6回バイオインダストリー奨励賞 簡 梅芳 助教(環境科学研究科)*

■第17回「ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」 佐々木 晴香さん(歯学研究科)



渡辺 寛子 助教 焼野 藍子 助教 植田 美那子 教授

■日本物理学会第2回米沢富美子記念賞、第24回守田科学研究奨励賞 渡辺 寛子 助教(ニュートリノ科学研究所)*

■一般社団法人日本流体力学会「竜門賞」(2021年度) 焼野 藍子 助教(流体科学研究所)*

■一般社団法人日本機械学会流体工学部門「フロンティア表彰」第100期(2022年度) 焼野 藍子 助教(流体科学研究所)*

■第19回(令和4年度)日本学術振興会賞 植田 美那子 教授(生命科学研究所)

■第9回ものづくり日本大賞 優秀賞 北川 尚美 教授(工学研究科)*

【就任】

■外務大臣次席科学技術顧問 小谷 元子 理事・副学長



小谷 元子 理事・副学長 郭 媛元 助教 鈴木 吉奈 准教授

【その他】

■MIT Technology Review 「Innovators Under 35 Japan 2022」に選出 郭 媛元 助教(学際科学フロンティア研究所)

■科学技術・学術政策研究所「ナイスステップな研究者 2022」選定 鈴木 吉奈 准教授(流体科学研究所)*



大坪 和香子 助教 佐藤 敦子 准教授 三島 英換 非常勤講師

■「2022年度創発的研究支援事業」採択

大坪 和香子 助教(農学研究科)* 小川 亜希子 助教(加齢医学研究所)* 焼野 藍子 助教(流体科学研究所)* 佐藤 敦子 准教授(お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系、東北大学 生命科学研究所) 三島 英換 非常勤講師 (ヘルムホルツセンター・ミュンヘン/東北大学大学院医学系研究科、客員研究員/非常勤講師)*

速報 2022年度 東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者決定

	所属・受賞者名	業績名	受賞コメント
人文社会科学分野	文学研究科 西村 直子 准教授	古代インド祭祀 文献成立史研究	審査に当たられた先生方、そして、直接にも間接的にもご指導とご助言を賜りました文学研究科の先生方並びに職員の皆様、誠に厚く御礼申し上げます。古代インド祭祀文献の研究は大変地味なものです。私たちが歴史というものにアクセスできるのは、世代を継いで蓄積されてきた、ひとつひとつは地味に見えるかもしれない営為のおかげです。このような研究は、本学で育まれてきた豊かな土壌があれば継続することはできませんでした。その土壌を、更に豊かなものとして次の世代にバトンタッチできるよう、一層励んで参ります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
理学・工学分野	多元物質科学研究所 川西 咲子 助教	化合物半導体材料の 高温溶液成長の研究	この度は、栄えある「紫千代萩賞」をいただき、素直に大変嬉しく思っております。時に厳しく、時にあたたかく、研究を後押ししてくださった皆様、心より感謝しています。「千代(せんたい)」とは、仙台の旧表記であり長い年月の意味もつ言葉で、紫千代萩賞には「千代にも続く知と創造をもたらす」との願いが込められているそうです。この有難いメッセージに恥じぬよう、材料プロセス研究を通じて、千代にも続く豊かな日本の未来の創造に貢献したいと思っております。より一層の精進を重ねて参りますので、引き続きお力添えをいただけますと幸いです。
農学・生命科学分野	農学研究科 多田 千佳 准教授	微生物を活用した 再生可能エネルギー生産と 資源循環の研究	この度は栄誉ある第6回紫千代萩賞を授与していただき、ありがとうございます。今回2度目のチャレンジでしたが、これも学生たちから、もう一度チャレンジしてみても背中を押されてのことでした。東北大学で働き始めて丸13年になるとうとしています。多くの方々の暖かいご指導やご鞭撻を支えられて、何とかここまでくることができました。改めてご支援賜った皆様、心より深く感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございます。今後とも持続可能な地球に貢献することにあきらめず、微生物を用いたバイオマス利活用の研究を続けることで貢献できるよう、さらなる精進を重ねて行きたいと思っております。ありがとうございます。

医歯薬学・保健分野 該当なし

東北大学 特設サイト 「時代を駆ける東北大学の女性たち -日本初・女子大生誕生の地-」公開中

第1章から第6章まで、全コンテンツが公開されました。ぜひご覧ください。

第1章 「女子大生の始まり」	第4章 「男女共同参画の歩み」
第2章 「女子大生誕生秘話」	第5章 「翔け！輝け！東北大の女性研究者たち」
第3章 「女子大生の広がり」	第6章 「誰も取り残さない社会の実現のために」

